

Chiba Keiai Junior College



Home.

Vol.1
2014

— 本学への入学を希望し、学び、
社会で活躍する卒業生のいまを伝える

Home Vol.1 2014

本学への入学を希望し、学び、社会で活躍する卒業生のいまを伝える

2014年7月発行

www.chibakeiai.ac.jp



千葉敬愛短期大学は数多くの優れた人材を輩出し、多くの方が小学校、幼稚園や保育所などで活躍しています。また同級生、先輩や後輩とのつながりの深さも特徴といえます。本誌は、こうした本学のブランドや、本学での学びを基本に卒業生が今なお学び続ける姿をお伝える目的で発行しました。

受験生におきましては、職場で活躍している卒業生のエピソードを通じてご自身の将来像を描いていただきたいと思います。

一方、校友会会員の皆様におきましては、大学卒業後の会員のご活躍ぶりをご覧いただき、同じ志を持つ仲間として意識共有を図るのはもちろんのこと、会員の皆様同士のつながりがより一層深まることを願っております。

— 教育・保育の敬愛



千葉敬愛短期大学

～校友会の皆様へ～

本誌は、今後定期的に刊行する予定です。皆様の本誌への積極的なご参加を心よりお待ち申し上げます。また、お気づきのことがありましたら、右記の連絡先までお知らせください。

〒285-8567 千葉県佐倉市山王1-9

TEL: 043-486-7111 (代表) FAX: 043-486-2200

発行/千葉敬愛短期大学校友会
(千葉敬愛短期大学校友会 HP)

<http://www.chibakeiai.ac.jp/tkouyukai/>



千葉敬愛短期大学のあゆみ

1921 (大正10年)
八日市場女学校創設



1926 (大正15年)
財団法人関東中学校創立



1950 (昭和25年)
千葉敬愛短期大学教育科設置
(現:千葉県匝瑳市八日市場町)



1952 (昭和27年)
法経科増設 (~昭和44年)

1955 (昭和30年)
・教育科を初等教育科と改称
・保健体育教員養成所設置 (~昭和48年)



1959 (昭和34年)
初等教育科移転
(現:千葉市稲毛区穴川)



1962 (昭和37年)
初等教育科第二部増設
(~昭和62年)



1969 (昭和44年)
千葉県教育委員会より委託研
修生受入れ (公立小学校教諭資格
格付のため)

1973 (昭和48年)
千葉敬愛短期大学附属幼稚園
開園 (現:千葉市美浜区高洲)

1987 (昭和62年)
初等教育科移転
(佐倉市山王の現在地)



1990 (平成2年)
千葉敬愛短期大学
国際教養科増設

1992 (平成4年)
図書館・特別教室棟、
学生会館完成

1996 (平成8年)
情報教育研究所開設

1997 (平成9年)
国際教養科学生募集停止
(学部へ改組転換のため)

2000 (平成12年)
千葉敬愛短期大学創立50周年

2001 (平成13年)
保育士養成課程を開設

2009 (平成21年)
千葉敬愛短期大学
総合子ども学研究所開設

2010 (平成22年)
千葉敬愛短期大学創立60周年



2014 (平成26年)
・初等教育科を現代子ども学科
と改称
・初等教育コース、保育コース
を設置

Message
千葉敬愛短期大学 校友会会長
藤田 賢一



千葉敬愛短期大学校友会は、2012年に創設20周年を迎えました。この間、大学の諸行事に意欲的に参加し、学生にも周知されてきました。様々な行事での関わりを通して、学業に取り組み、これから社会に一步を踏み出そうとする学生の若さと熱気に接し感動いたしました。こうした大学との良好な関係を維持し、

いっそうの発展を遂げることが校友会の最大の役目だと心得ております。受験生の皆さん、ぜひ本学に入学していただき、私たちと共に「同窓生」として活躍していきましょう。本学を志望する皆さんを心よりお待ちしております。

Message
千葉敬愛短期大学 学長
明石 要一



2014年の4月、学長に就任した明石要一です。千葉大学の教育学部で37年間教員を務め、主に小・中学校の教員養成を行ってきました。今度は幼児教育の保育者を養成する役割も担うこととなります。よろしく申し上げます。

子ども学科に名称を変更し、定員も50名増やして200名となりました。短期大学を取り巻く環境は厳しいのですが、お陰様で就職率はほぼ100%を維持する一方、毎年多くの方に本学を受験いただき、定員を十分に確保しています。

本学では、量から質を求められるこれからの教育・保育のニーズに対応し、高い志を携えて入学した学生たちを養成し、社会に貢献できるよう育成していく所存です。小誌が、本学を築立ち、活躍する卒業生の様子をご紹介できれば幸いです。



千葉敬愛短期大学の思い出

昼間働きながら夜に学ぶという環境だったからこそ、仲間同士で励ましあって学ぶことの楽しさを感じていました。先生方からは丁寧に、わかりやすく教育のポイントを伝授していただき、それが教育現場で役立ったことは言うまでもありません。

実践的な授業、熱心な先生方、素晴らしい仲間、この大学には教員になるために必要なものが確実に揃っており、密度の濃い充実した2年間だったと思います。昼間の大学に行く機会となったKEIAI☆フェスタでの弁論大会に参加したことも楽しい思い出です。

思い出の場所

学生食堂



学生食堂で働かれている給仕職員の方とのふれあいが思い出に残っています。「今日の焼きそばは、サラッとして美味しいよ」とか、カレーのごはんを多めによそっていただいたりとか、孤食になりがちな忙しい中、ふっと温かな応援をいただいたように思います。

私が入学した当時はまだ夜間(二部)があった頃で、千葉敬愛短期大学は穴川にありました。昼間の勤め先が佐倉でしたので、授業に間に合うためには終業30分前に職場を出なければなりませんでしたが、教育実習中は休暇を取らなければなりませんでしたが、それを許していただいただけでなく、私の未来に期待すると言ってくださった上司や温かい目で見守ってくださった同僚の皆さんには今でも深く感謝しています。

あれから40年間、私の夢を応援してください。くださった想いに応えるためにも、いろいろなことに挑戦し、学び続けてきました。その結果の一つとして校長就任があります。教員の仕事は学び続けること。いつでも過言ではありません。子どもたちや後輩に教え、教わることで共に育ち、それが次の世代へとつながっていきます。さらに肝に銘じたいことは意図しない教育です。わかりやすく、気持ちを入れて話をすること、子どもたちが置かれている環境を理解し、共感すること、自分が意識していなく

でも教育効果を上げることがあると思います。教員は子どもたちにとって一生に関わるほどの存在感があります。私は折に触れて先生方に「子どもたちの未来に責任を持つつもりで教壇に立つてほしい」と話しています。それは、「教育とは教員の人格そのものが行うことだ」と思うからです。このことを踏まえ、私は座右の銘である「和顔愛語」*の実践をこれからも続けていきます。

*和顔愛語…おだやかな笑顔と思いやりのある話し方で人と接することを表す。



“共”育 教育(こ)の道は 時空を超えて 花開く 教え教わり 共に育ちつつ

Profile

1973年3月卒業

片山 喜久子さん

大学卒業と同時に、千葉市内の小学校へ着任、学級担任として教職をスタート。以後、千葉市内小学校の7校に勤務。体育、学級経営等を研究。教務主任、教頭、校長を歴任。退職時は初任の小学校に勤務。教職のほか、保護司、更生保護女性会の活動の傍ら、現在は佐倉市南部地区薬物乱用防止対策協議会の広報活動に取り組んでいる。



千葉敬愛短期大学の思い出

卒業して8年ほどになります
が、楽しみながら学べたという
記憶があります。理科の授業で
の実験や、運動会のようなクラ
ス対抗の体育祭など、童心に帰
るといいますか、また小学校時
代に戻ったような雰囲気でした。
模擬授業で学んだ「手遊び」
は、子どもたちと初めて顔合わ
せをした時や学級開きの時、給
食や休み時間といった授業以外
の時間に、子どもたちとの関わり
を深めるうえでとても有効で
した。授業だけでなく、大学生
活の中からも学ぶことが多く、
本当に良い学校だと思います。

思い出の場所

教室棟3Fの
ソファコーナー



空き時間は教室の中で過ごす
より、外に出てリフレッシュす
ることが多かったです。どこか
でお菓子を買ってきては、この
ソファに座って友人と会話を
楽しんだりしていました。



私が教員として初めての異動で勤
務した小学校の校長先生が片山喜久
子先生でした。片山先生は大学の先輩
であり、学生時代に教育実習でお世
話になった小学校の校長先生でした

ので、大きな縁を感じました。片山先
生からは多くのことを学びましたが、
「子どもたちが置かれていた環境を十
分に理解したうえで受け止めて、共感
することが大事」ということが一番
心に残っています。
教壇に立ち、子どもたちを前にする
とよくわかるのですが、教員は教える
立場にありながら、逆に教わっている
ことも少なくありません。子どもたち
は一人ひとり感じ方が違うので大変
に思うこともありますが、子どもたち
の行動や態度からどう向き合えばい

いのかを考えることができました。こ
れは私自身が日々教わり続けていた
からだと思っています。
私も一児の母となり、わが子からも
教わることがあります。これから職場
に復帰しますが、母親という新たな視
点でも子どもたちと接することがで
きると思います。教員としての私は学
問を教えるものの、子どもたちとの接
し方については、子どもたちからもま
た教わることが多いだろうと、学び続
けることの楽しさをあらためて感じ
ています。



“共感” 教える、教わる、 学び続ける楽しさ

Profile

2006年3月卒業

小野 愛子さん

大学卒業後、1年間千
葉市内の小学校で講師と
して勤務。この間に教員
採用試験に合格し、翌年
より千葉市内の小学校に
勤務。3年後、片山先生
が校長を務める小学校に
異動。2013年より出
産に伴い育児休業中。



千葉敬愛短期大学の思い出

千葉敬愛短期大学は、教員と学生が強い絆で結ばれた学校です。創立から今日まで一貫して、先生方は熱心ですし、学生を想う気持ちにあふれています。クラス制ということもありますが、一人ひとりの学生とも真摯に向き合っています。その想いを受け止めた学生が教員として立派に育っていく。本当の意味での「絆」を得ることができる本学での学びを未来へと受け継いでほしいと思っています。

思い出の場所

体育館



鮮明に覚えている授業のひとつが体育でした。特に柔軟体操とバスケットボールは、クラスの仲間との交流を深めるよい機会となりました。今でも体育館は思い出深い場所です。

40数年に及ぶ教員生活を、私は「温心」をテーマに歩んできました。教員としてだけでなく、人間としての基本は「温かい心」。いつも元気で、正直で、豊かな発想力を持った子どもたちと向き合うためには、教員自身が温かい心を持ち続けることが大切だと感じていました。そのためには自分自身が充実していること。自分の良さや得意なことを、すぐに答えられるくらい自己充実が図られていると良いと思います。

も、人に対しても、温かい心で接しないと何事もきちんとできません。朝の挨拶も「おはよう」ではなく「おはようございます」。自分の気持ち一つで行動が大きく変わるということを、授

業で学生たちに話しています。周田の方々の会話も、正しい日本語を遣うことで心が豊かになります。自分という人間について自信を持って表現すれば、充実した日々を送ることができます。そして謙虚な気持ちで物事に取り組むことは、教えを乞うという姿勢にも現れます。子どもは洞察力に優れていますし、正直ですから、温かい心を持って素敵な人間になろうという努力を続けている教員にこそ、子どもたちもついてくるのだと思います。



蜂谷 幸子さん

服部 真歩さん(2年)



“温心” 子どもに学ぶ、 元気さ、正直さ、発想力

Profile

1970年3月卒業

蜂谷 幸子さん

大学を卒業後、八千代市内の幼稚園に勤務。その後、四街道市内の幼稚園に34年間勤務し、うち25年間園長を務める。40数年に渡り幼児教育に携わる一方、2009年より本学の非常勤講師に就任し、後輩の指導に尽力。2014年4月からは佐倉市の児童館と学童保育所の所長として地域の児童の育成に当たっている。



千葉敬愛短期大学の思い出

大学なのに大学らしくないといいますが、クラス制なのでみんなが一致団結してひとつの夢に向かう、小・中・高校のような雰囲気でした。先生方との繋がりもとても強く、勉強以外にいろいろなことを学ばせていただきました。

行事の時には仲間と意見がぶつかり合うこともありましたが、みんなでよく話し合っ問題を一とつずつ解決していきました。コミュニケーションを通じて、異なる意見を出し合いながらひとつにまとめることの大切さは、大学生活のなかで身につきました。苦楽を共にしながら、心の繋がりを学んだ大学でした。

思い出の場所

2年C組教室



学校行事のたびにみんなで教室に集まって考えを出し合ったり、時にはぶつかり合ったり…そんな日々が走馬灯のように思い出されます！



私が子どもの頃は、年齢の異なる子どもたちが集まって一緒に遊ぶというのが日常でした。特に年下の子どもたちは声をかけると慕ってきてくれ、それが嬉しく、気がついたら自然と保育者の道を選んでいました。

今の保育所に異動してきた直後は、新しい職場ということで緊張していたのですが、子どもたちが「せんせい！」と言ってそばに来てくれると、それだけで嬉しくなりました。子どもたちと繋がることで、次第に緊張も和らいでいきました。

さまざまな性格の子どもたちと関わりますので悩む時もありますが、その時は同僚の先生方の助言に耳を傾け、私とは違う子どもたちとの関わり方を学び、保育の幅を広げるように心がけています。

毎日の保育では、子どもの心に寄り添えるように、子どもたちへの言葉かけに加えて、抱きしめるなどスキンシップを図るように心がけています。一人ひとりの子どもたちと向き合えるよう、保育者の私たちがお互いに声をかけ合い、ちょっとしたことでも情



“^{けいあい}繋愛”

心を伝え合う、それがコミュニケーション

Profile

2009年3月卒業

鶴岡 祐美さん

大学卒業後、千葉県内の私立幼稚園に就職。その後、公立保育所に採用される。2014年4月に現在の勤務先に異動。

報共有をして、子どもたちが発信するサインに応えるように努めています。